

各位殿

## 広域連携医療ネットワークシステム研究会の設立と開催案内

残暑お見舞い申し上げます。ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、我々はこのたび「**広域連携医療ネットワークシステム研究会**」を設立しました。近年の医師不足はきわめて深刻で救急医療体制の不備や僻地医療における高度な医療サービス提供の遅れなど、社会的な問題となっております。また、医療機関の中でも、診療所においてははまだ電子カルテの普及が遅れており、広域的な医療連携を進める上での障害となっております。

この研究会は、このような医療情報システムの動向や背景を踏まえ、産学官の協力によりIT技術を基盤とし、国内外の連携医療などの現状を広く調査し、ニーズや問題点などを明確にするとともに今後のあるべき高度でかつ広域的な医療連携ネットワークシステムについて議論・検討し、一定のコンセンサスがえられれば研究・開発に発展させ、その成果を広く地域の医療水準の向上のために役立てることをミッションとしています。

そこで、東海大学を中心とするメンバーが発起人となり、一回目の本研究会を下記により開催することになりました。第一回目でありますので、まず、冒頭で研究会設立の趣旨について説明し、皆様のご賛同を頂きたいと思う次第であります。続いて、研究紹介では「問題提起」も兼ね、我々発起人が現在進めている研究について紹介し、本研究会の目指す方向性等が議論できればと思っております。研究に関するデモの後、総合討論を予定しておりますが、時間の許す方は懇親会にご参加頂き、議論を続けたいと思います。

是非ともご参加頂きたくご案内申し上げます。

### 第一回「**広域連携医療ネットワークシステム研究会**」

1. 日時：2008年9月18日（木）14：00－19：30
2. 場所：東海大学湘南校舎12号棟12-308コンピュータ室
3. 参加費：無料
4. 研究会（14：00－17：20）

① 研究会設立の趣旨説明と質疑

② 研究紹介

- ・ 「バーチャルリアリティとその医療応用」  
東海大学情報通信学部情報メディア学科 濱本和彦准教授
- ・ 「患者の思いを哀情報化する電子カルテの可能性について」  
東海大学情報通信学部経営システム工学科 野地 保教授

- ・ 「地域通貨システムとその医療応用の可能性について」  
東海大学情報通信学部組込みソフトウェア工学科 辻秀一教授
- ・ 「電子紹介状と地域医療連携」  
麻布大学生命・環境科学部臨床検査技術学科 周藤安造講師
- ・ 「医療を支えるITインフラ」  
コアーズ株式会社 佐々木仁取締役社長

③ デモ

- ・ 「バーチャル触診システムなどの体験デモ」
- ・ その他

④ 総合討論

5. 懇親会（17：50－19：30）

会場：小田急線東海大学前駅近辺を予定

以上

2008年8月25日

発起人	東海大学情報通信学部情報メディア学科准教授 濱本和彦
発起人	東海大学情報通信学部経営システム工学科教授 野地 保
発起人	東海大学情報通信学部組込みソフトウェア工学科教授 辻 秀一
発起人	山近記念総合病院院長 久保田光博
発起人	コアーズ株式会社代表取締役社長 佐々木仁
発起人	麻布大学生命・環境科学部臨床検査技術学科講師 (元東海大学教授、コアーズ(株)顧問) 周藤安造
発起人(事務局)	コアーズ株式会社事業統括部部長 篠崎 敏

問合せ先 湘南校舎（濱本） hama@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp,  
事務局（篠崎,周藤） s-shino@core-s.co.jp,suto@y8.dion.ne.jp

## 発表概要

### 1. 「バーチャルリアリティとその医療応用」

#### 概要

バーチャルリアリティとは、五感を利用したヒューマンインタフェース技術である。これにより、ユーザに対して直感的な情報提示が可能となる。本発表では、バーチャルリアリティを利用した超音波診断支援システムとバーチャル触診システムの研究について紹介する。

また、VRシステムのデモを行い、バーチャル触診システムなどを体験してもらう。

### 2. 「患者の思いを哀情報化する電子カルテの可能性について」

#### 概要

厚生労働省によると、医療機関や医師などに対し不安を感じるものが「よくある」と回答した人と「時々ある」とを合わせると7割を超える。その多くが、コミュニケーション不足と考え、患者さんの痛みや不安を哀情報として捉えることを試みる研究を行っている。今回は、哀情報の抽出法と問題志向型診療録(POMR)記載方法の電子カルテシステムを哀情報に基づく患者志向型システムへ転換する方式について連携化を踏まえた可能性を議論する。

### 3. 「地域通貨システムとその医療応用の可能性について」

#### 概要

地域社会における地域住民間のコミュニケーション向上や相互扶助をはかるためのコミュニティ支援の仕組みの一つとして、「地域通貨システム」がある。最近はこの「地域通貨システム」もIT技術によって強化されつつある。発表者は、「SNS（ソーシャルネットワークサービス）機能を持つ地域通貨システム」の提案・実験・評価を行ったので、これを紹介するとともに医療応用の可能性について議論する。

### 4. 「電子紹介状と地域医療連携」

#### 概要

地域医療連携を実現する有効な手段として電子紹介状システムがある。本発表では、まず電子紹介状の特徴などについて紹介する。次に、これと三次元画像を含む画像診断支援システムを融合し、より有効性の高い地域医療連携を実現する方式について述べる。本システムは診療所間のみならず病院—診療所間連携に適用し、高度な三次元画像に基づく診断支援連携を目指すものであるが、問題点もあり、議論したい。

### 5. 「医療を支えるITインフラ」

#### 概要

今やあらゆる業種業態の実現には、IT技術無くして論じることは不可能であり、ましてや医療現場において高度医療、救急医療、広域医療連携などの実現には、欠かすことのできない技術と認識している。そこでこれらの社会基盤を支えるITインフラの最新技術の紹介と、それらの技術を組み合わせることで実現可能なシステムの考察を紹介する。

なお、デモも予定している。